

月刊

地域保健



●特集

低出生体重児の地域支援 退院後の支援を考える



●FACE 2010

北名古屋市福祉部高齢福祉課地域包括支援センター長

日栄和歌子さん

●OPINION! 保健師さんへ

品川成年後見センター室長 齋藤修一さん



やっぱり現場。その人の人生、歴史が分かる。分かるから保健師が動ける！

「地域に出なければ、住民の生活は見えない」

北名古屋市福祉部
高齢福祉課
地域包括支援センター長

ひ　えい
日栄和歌子さん

「困難ケースが多くなってきましたね。居宅のケアマネジャー（以下、ケアマネ）さんだけでは対応し切れないケースが増えて、「地域包括支援センター（以下、包括）」にいつしょにかかわつてほしい」と頼りにされ、忙しい毎日を送っています」

北名古屋市地域包括支援センターの多忙な様子が伝わってくる。

声の主は、保健師の日栄和歌子センター長。市内の集合住宅、グリーンセンター長。

ティ師勝の集会場で開かれる「回想法スクール」に向かう車中の言葉だ。

「介護予防プランを立て、特定高齢者の教室を開くといった通常の業務だと計画どおりにできるけど、虐待のようなケースがぽんと入ってくることもあります……」

他職種にとつても「頼みの綱」であ

る地域包括支援センター。前日の午前中は、センターと師勝保健所、保健センター、小規模多機能型居宅介護のケアマネジャーらと検討会を持ち、近年、増えている、精神疾患のある高齢者や介護者への支援について話し合つたといふ。

「高齢者、介護者に限らず、母子の領域でも精神疾患の問題が非常に多く、社会が病んでいることを感じますね」

困難ケース、虐待、精神疾患……。どれも現在の保健師活動における課題ばかりだ。回想法への取り組みを皮切りに、どんなお話を聞けるだろう。

「北名古屋市」「地域回想法」でピンとくる方も少なくないことだろう。市を挙げての取り組みに、全国の自治体をはじめ議会や婦人会による視察が相次ぎ、多くのマスメディアにも取り上げられている。今や、市の顔の一つだ。

保健師活動の基本Ⅱ「人の話を聴くこと」が北名古屋市の「地域回想法」に昇華



教室が開かれるグリーンセンター師勝は、現在、A～Dの4棟からなり、総戸数650を超える。昭和40年代後半から建築が進み、当時2万人ほどだつ

北名古屋市は、平成18年3月、名鉄犬山線の西春駅を挟んで東の師勝町と

西の西春町の対等合併によつて誕生し、満4歳になつたばかり。人口8万1406人、高齢化率約19・8%（今年4月1日現在）。師勝町時代の14年度から、回想法を認知症予防対策として積極的に取り入れてきた。

その回想法だが、心理療法の一つで、古い写真や生活用具などを用い、楽しめた思い出や昔取つたきねづかをみんなで語り合い、脳を活性化させる効果を狙うもの。

「北名古屋市」「地域回想法」でピンとくる方も少なくないことだろう。市

を挙げての取り組みに、全国の自治体をはじめ議会や婦人会による視察が相

次ぎ、多くのマスメディアにも取り上げられている。今や、市の顔の一つだ。

特集

低出生体重児の 地域支援

退院後の支援を考える

少子化でありながら低出生体重児の数は増加している。原因として高齢出産やダイエットによる「やせ」など母胎環境の悪化のほかに、新生児医療の発達により超低出生児でもかなりの数が救われるようになつたことなどがある。低出生体重児は精神遅滞や脳性まひ、発達障害児となるリスクが指摘されており、親の不安も大きい。虐待のハイリスク児としてのリスクも高まる。出産医療機関退

院後は、児だけでなく親の精神的バックアップも含めた包括的な支援が地域には求められるが、支援スタッフの知識不足や、出産医療機関と地域との「段差」が指摘されることが多い。特集では低出生体重児の現状と予後について解説するとともに、出産医療機関退院後の地域における支援のあり方を探る。また、県・保健所における先進的な取り組み事例を取り上げる。

P16 低出生体重児の現状と長期予後

◎昭和大学医学部 板橋家頭夫

P24 低出生体重児の地域で求められる支援 一極低出生体重児を中心に

◎東京都立墨東病院 渡部とよ子

P30 クリニックでのNICU卒業児の支援 赤ちゃん成育ネットワークの一員として

◎おぐちこどもクリニック 小口弘毅

P42 保健師のコーディネート機能に期待 一親として支援に望むこと

◎未熟児の会 住吉真美

P46 【事例】医療機関、保健所、保健師の“お互いが近くなった”支援の発展

—多機関による確かな連携が結実する熊本県のリトルエンジェル支援事業

◎熊本県健康福祉部 竹園利絵

P54 【事例】連携、交流の場になった未熟児交流会

—大阪府豊中保健所の取り組み

◎大阪府豊中保健所 逸見京子

P60 【事例】保健師が、見て、つないで、動かした、小児在宅ケア体制

—神奈川県厚木保健福祉事務所による医療機器等装着児の地域支援

◎神奈川県厚木保健福祉事務所保健福祉部 田坂雅子



目指すは世界！

いずれ教育にも携わる夢を持ち、
ただ今修業中！

いわた よりこ
岩田和子さん ●津島市健康福祉部健康推進課



▲藤の名所としても名高い天王川公園。4月下旬から5月上旬は尾張津島藤まつりを開催



取材・文・写真 西内義雄（医療・保健ジャーナリスト）

ひよこさんと会う前は何度かメールや電話でやり取りをする。その過程で人柄を想像するのが僕の楽しみの一つだ。今回印象に残ったのは、「毎日地域看護の面白さを感じながら、地域での保健師の役割とはどういうものなのか自問自答して過ごします。自己を見つめ、役割を見つめ直す。そんなときになれど。また、今の熱い思いを形に残せたらと思います」という言葉だ。まじめでしつかり者のイメージが大きく膨らんだ。他のやり取りから海外の活動にも興味を持つていることが分かり、今までにないタイプのひよこさんかもしれないと思いました。

名古屋駅から名鉄線に乗りおよそ20分。津島駅からさらに西に歩いて15分



▲保健センターのすぐ近くにある津島神社にて

学生時代から 途上国支援活動

……」
のイメージが大きく膨らんだ。他のやり取りから海外の活動にも興味を持つていることが分かり、今までにないタイプのひよこさんかもしれないと思いました。

名古屋駅から名鉄線に乗りおよそ20分。津島駅からさらに西に歩いて15分

ほどの津島市総合保健福祉センターに勤務する岩田和子さんは今年2年目を迎えた27歳。第一印象はメールの文章同様、新人らしからぬ落ち着きを感じられた。

出身はお隣三重県桑名市。実は両親がクリスチヤン（プロテstant）で子どものころから教会に通っていたという。

最初になりたいと思った職業は役者だった。幼稚園のころ見た舞台に感動したのをきっかけに、小学校から学校の演劇クラブに入っていた。中学でも気持ちは変わらず、舞台役者を目指すべく演劇科のある埼玉の高校を受験した。しかし補欠という宙ぶらりんな状態だったため地元の県立高校も受験。合格通知が来たところで補欠が繰り上げになつたが、時すでに遅し。家族の

和をつくる者は幸いです……」
という聖書の一説から取ったもので、子どものころから自分はピースメーカーになるんだといふ思いがありました。

人柄を想像するのが僕の楽しみの一つだ。今回印象に残ったのは、「毎日地域看護の面白さを感じながら、地域での保健師の役割とはどういうものなのか自問自答して過ごします。自己を見つめ、役割を見つめ直す。そんなときになれど。また、今の熱い思いを形に残せたらと思います」という言葉だ。まじめでしつかり者のイメージが大きく膨らんだ。他のやり取りから海外の活動にも興味を持つていることが分かり、今までにないタイプのひよこさんかもしれないと思いました。

名古屋駅から名鉄線に乗りおよそ20分。津島駅からさらに西に歩いて15分